



まつもと じゅん

松本純

中区・磯子区・金沢区
まちかど
政治瓦版



自民党

平成21年7月24日発行
編集・自由民主党
神奈川1区支部
編集長 平木茂
横浜市中区野毛町2-65
電話045-241-7800

松本純ホームページ 毎日更新中! [http:// www.jun.or.jp](http://www.jun.or.jp) ▶検索キーワード「松本純」

「横浜」にとって真に必要な政治家は誰なのか?

松本純 前衆議院議員に聞く

——衆議院が解散されました。3期目の4年間を総括すると

松本純 国政と全力で格闘した4年間でした。特に官房副長官として、この10カ月間は経済危機との戦いでした。

「このまま日本を沈没させてたまるか!」。そんな思いで必死にまとめた麻生内閣の経済危機対策によって明るい光は見えてきています。

——自民党にとっては強烈な「逆風」の中での総選挙となりますが

松本純 解散前にさらした醜態を自民党の一員として誠に申し訳なく思います。そんな中で松本純が国会議員であり続ける意味は何なのか? 私は今、自分が政治家となった「原点」に立ち返るべきだと痛感しています。私が政治を目指したのは、私が生まれ育った野毛を、横浜をよくしたいという一念からです。「横浜にとって必要な政治家であること」、それが国をよくすることにつながると、私は確信しています。



世界最速の経済危機脱却を
ニッポン浮上



——有権者が今、松本純に望んでいることは何だと思えますか

松本純 今の時代、最も重要なのは医療・年金・介護・福祉といった社会保障の改革です。私は13年前に国会に議席を得て以来、社会保障政策を最大のテーマとしてきましたから、「社会保障の専門家・松本純」の経験と知識が求められているのだと思います。

——選挙戦では何を訴えていきますか

松本純 家族とわが町を支え安心の社会をつくるために、私は具体的に3つの政策の断行を皆さまにお約束します(裏面参照)。そのうえで訴えたいのは、私という人間です。政治に問われるのは人間性と信頼です。「あなたのマニフェストは?」と問われたら、「松本純という人間そのものです」と私は答えます。(インタビュー・編集部)

自民党神奈川1区決起大会にご参加ください

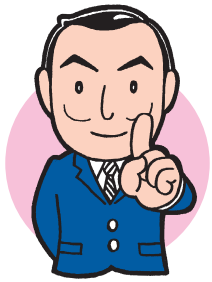
日時:平成21年8月13日(木)午後6時30分より
場所:杉田劇場(JR新杉田駅前らびすた新杉田4階)
弁士:松本純 自民党神奈川1区支部長

家族とわが町を支え「安心の社会」をつくるために 松本純は「3つの政策」の断行を皆さまに約束します

私たちは今、さまざまな「不安」の中で生きています。日本経済の将来、雇用、子育て、老後、治安、食…。その背景にあるのが、世界経済の大転換や戦後の日本の安心社会を支えていたものの崩壊です。今、いちばん必要なのは、まず景気回復、そして「新しい日本型安心社会」をつくることです。

松本純は、その実現に議員生命を賭けます。

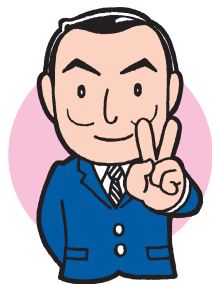
① 「経済成長」を図り、活力と安心が両立する社会をつくります



世界的な経済危機による不況で、失業・雇用不安が拡大しています。格差・不公平感が露わになり、日本経済の将来展望が失われています。今、求められているのは、経済成長への布石と雇用を軸とした「安心社会」をつくることです。

- 環境保護・未来型産業への支援を進め雇用と所得を確保します
- 人への投資を進め個人の能力発揮・自己実現をサポートします

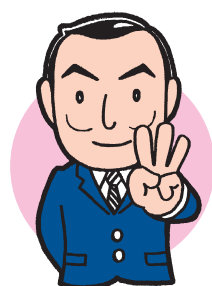
② 全世代・全生涯に「安心」をもたらす社会保障制度を確立します



年金、高齢者医療制度が揺れています。現役世代が将来に悲観的になり、多くの人が目標や連帯感を失っています。日常生活の中で広がる、そんな閉塞感を打ち破るのは、全世代・全生涯を通じた「切れ目のない安心」の実現です。

- 信頼できる医療・年金・介護・福祉の実現を最優先で行います
- 子育て・次世代を支援し、家族・地域を支える政策を進めます

③ 公務員制度改革、地方分権で「政治への信頼」を取り戻します



かつて日本を支えた官僚制度が、国民の信頼を失っています。政治・行政の信頼回復は「待ったなし」の課題です。徹底した行政改革・政治改革を断行し、真に国民のために汗を流す政治を進めていかなければなりません。

- 政治主導の下、ムダを徹底排除し、国民のために働く政府にします
- 「天下り」「渡り」を全面禁止し、官僚の特権意識を打破します
- 国と地方の関係を見直し、地方分権・道州制の実現を図ります

まつもと じゅん プロフィール ●昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ ●野毛山幼稚園、本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師 ●本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長など街づくりや地域活動に取り組む ●平成2年～横浜市議（3期） ●平成8年～衆議院総選挙で初当選。専門を生かし医療・福祉・年金などに全力投球。介護保険制度を創設した責任者の一人 ●平成15年～衆議2期目。総務大臣政務官。 ●平成17年～衆議3期目。総務大臣政務官に再任。三位一体改革、行財政改革など新しい日本の国の形をつくるため奮闘。 ●平成17年11月～議院運営委員会理事、国会対策委員会副委員長として国会運営等に取り組む。 ●平成18年9月～自民党副幹事長（以後、4期連続） ●平成19年6月～自民党横浜市連会長 ●平成20年9月、麻生内閣で官房副長官に任命され現在に至る